

## 小児科だより vol.38

### 赤ちゃんの血便とリンパ濾胞増殖症

2019.10.1 発行

こんにちは。だんだん日が短くなり、朝夕は涼しく感じるようになってまいりました。現在、小児科外来では、RSウイルス感染症や気管支喘息などのお子さんが増えております。

当科では、例年通り今月中旬からインフルエンザの予防接種を開始いたしますので、お気軽にご相談頂きますと幸いです。(過去の小児科だよりに、『うちの子はインフルエンザワクチンうった方がいいですか?』

というタイトルで書いているので、そちらも参考にして頂けますと幸いです。)

さて今月のテーマは、最近なぜか相談の多い、赤ちゃんの血便について、お話をさせていただきます。

赤ちゃんの便に「血液のような」赤いものが見られた場合、まずは、赤いものが血液であることを確認することが大切です。離乳食の一部が混じっていたり、ある種の抗生剤の服用でも血便と紛らわしい色の便が出ることもあるため、便の写真をスマートフォンなどで撮影したり、実際の便をおむつごと持って受診されることをお勧めします。

赤ちゃんの様子にいつもと変わった様子がなく、おっぱいもよく飲んでいる場合、赤いものが血液だったとしても、その多くは自然に良くなっていく心配のないもので、裂肛、母乳栄養児に多い母乳血便、リンパ濾胞増殖症などといった病気が考えられます。

母乳栄養の赤ちゃんは、母乳に含まれる乳糖やオリゴ糖、腸内細菌叢の影響で軟便になりやすく、これに加えて、粘膜や皮膚がもともと弱く、排便後におむつの中で清潔を保つのが難しいため、肛門の周りや直腸にびらんを作りやすいとされています。びらんのある部位を拭くことで血液が付着したり、便に血液が混じることもありますが、通常出血は速やかになくなるため、出血部位の確認ができないことが多いです。

このような単純な便による損傷以外に、リンパ濾胞増殖症があります。大腸のリンパ節が母乳に含まれる様々な成分に反応し、腫れあがり、その結果として大腸粘膜に傷がつき、出血します。通常この出血には痛みは伴わず、母乳をやめる必要もなく、数か月以内に改善します。

ただし、母乳栄養か普通ミルクか、体重増加は十分か、下痢・嘔吐などの随伴症状がないか、身体所見や全身状態など様々な視点で見ることがあるため、症状のある方は早めの受診をお勧めしています。

